

小見川町では、昭和32年9月に河口から約27km上流、利根川右岸地先から取水すること、上水道の一部通水



（執筆）
小見川広域水道企業団
浄水場長 大野 英秋氏

「小見川広域水道企業団について」

地域を守る潮止堰
河口堰だより
エニザーの声

発行所
独立行政法人水資源機構
利根川河口堰管理所
TEL 0478-86-0477

を開始致しました。また山田町では昭和33年8月小見川町からの分水を受けて、北部簡易水道の給水を開始しました。その後、両町とも拡張事業や施設の改良が実施され、町全域に水道が敷設されるようになり、昭和33年の利根川の異常洪水による流況悪化では、利根川下流部が大塩害に襲われ、小見川町でも一時給水停止のやむなき状態となりました。清水川を予備水源とする事で何とか乗り切ることができました。昭和46年に利根川河口堰が完成してから、しばしばは塩水遡上に伴う塩害が多少あったものの、塩分濃度管理が強化された昭和49

年以降は徐々に解消されていきました。山田町では、地下水源水量の減少に伴い水量不足という問題が生じました。小見川町、山田町では、両町の抱える様々な問題を共同処理し、合理的に運営することとし、昭和54年当企業団が設立されました。水道は地域住民へ良質で安全な水を安定して供給することを使命とするものであり、これを維持するためには水源水質が常に良質であることが最も重要なことです。利根川取水場の取水口は、河口から約27kmという利根川の最下流に位置するため、利根川の流量減少に伴う塩水遡上や強風によって下層の塩水が表層まで巻き上げられ、表層の塩分濃度が高くなったりする他、カビ臭、トリハロメタンといった問題があります。現在、当企業団では、

凝集沈殿と急速ろ過による浄水処理方法を採用しています。この処理方法は原水水質が良好な場合における一般的な処理方法で、主に濁質や不溶性物質等の除去を目的としています。しかし、この処理方法では臭気やトリハロメタン及び、その前駆物質などの溶解性の微量有機物質等は除去が困難です。そこで当企業団では異臭味対策として粉末活性炭の注入を行っています。また、トリハロメタンの発生を抑制するため、利根川原水の塩素イオン濃度が高い時期には、黒部川原水で希釈混合することで対応するようになっています。ただし水需要が逼迫する夏季の洪水期には、畜産廃水等により黒部川原水の塩素イオンも高くなるため、希釈混合での対応には自ずと限界があります。利根川河口堰の操作



城山第2浄水場(浄水後の水)



利根川取水口(河口より27km上流)

は、河口より26km地点の表層部で塩素イオン濃度500mg/l以下を目標に管理されています。水道用水の基準値は200mg/l以下となっており、海水の影響が少なくなるような操作をして頂くようお願いする次第です。

河口堰の四季

汽水域に生息する
スマートな魚
「クルマサヨリ」



週上調査で確認されたクルマサヨリ
(平成15年5月16日撮影)

海水と淡水が混じりあうところを汽水域といいます。汽水域は、海と川を行き来する回遊魚が体

調を整える重要な場所であり、また、川から豊富な栄養が流れ込んでくることもあって、動物プランクトンや魚類等がたくさん集まっています。利根川下流の汽水域のひとつがクルマサヨリです。クルマサヨリは、水郷地方では「ヨド」と呼ばれていて、下あごが細長く突き出たスマートな魚で、海の魚であるサヨリと種類的に近いため、形がよく似ています。下あごの先は黒色、背中は淡い緑色、体の側面には暗青色と銀色のたてじまがあり、大きいものになると体長20cmほどになります。汽水域の水面近くを群れをなして移動し、春から秋にかけては淡水も汽水域で生活し、5月から8月にかけて卵子という糸のついた卵を水草や藻などにからませて産卵し

ます。利根川河口堰で今年実施した春季の魚類等週上調査でも、魚道を遡上するクルマサヨリの一群が確認されています。そして、11月中旬になると、今度は汽水域へ海へと移動します。

禁漁区の周知

利根川河口堰の上下流110mの範囲及び魚道内での魚類の採捕(釣り、投げ網等、魚類を捕まえる全ての行為)は禁止されています。今までの古い看板から、今回大きくて見やすい、新しい看板に取り替えました。地元に住んでいる方でも、禁漁区であることを知らない方がいらっしゃるようですので、改めて周知して頂きたく思いますので、よろしくお願い致します。



新たに設置された禁漁区の看板



魚道脇に設置された看板(千葉県側)

編集後記

秋から冬にかけて、河口堰周辺から下流では、ハゼ釣りを楽しむ多くの釣り人や家族連れでにぎわっています。去年はあまり釣れなかったハゼですが、今年は例年に比べかなりの大物がたくさん釣れています。簡単な仕掛けで、子供からお年寄りまで誰でも手軽に釣りを楽しむことが出来る魚です。天ぷらにしてもおいしい魚ですので、是非一度体験してみたい方が多いでしょうか。(編集担当者)

この広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、施設見学も受け付けています。広報担当、総務グループ 松本(まつもと)、井藤(いふじ)までご連絡ください。
〒289-0611
千葉県香取郡東庄町新宿2276番地
水資源機構 利根川河口堰管理所
TEL 0478-86-0477
FAX 0478-86-3457
E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

利根川下流沿川紀行

利根川下流域の河童「十三枚伝説」

その昔、水郷の新島に「川太郎どん」と呼ばれる河童が住んでいました。その川太郎どんのなわばりに毎日きで、断りもなく水草をとっていく若者がいた

そうです。ある日、怒った川太郎どんが若者に、「俺様に断りもなく勝手に水草をとって、何をやるんだ。」と尋ねたところ、「うちの村には医者も骨接ぎもいねえから、この水草を陰干しにして、村に怪我人が出たら薬として使おうと思ってよ。」という返事でした。

川太郎どんは「おう、そうかい、そうかい。それなら良いがな。毎日黙って持っていくんで、お前さんを川底へ引っ張りこもうと思っっていたんだ。その良い心掛けに免じて、ひとつお前さんにとっておきの薬の作り方を教えよう。だけどこりやお前さんだけに教えるんだぞ。」と骨折、捻挫、打ち身などによく効く練り薬の作り方を伝授しました。

その薬の効き目のすばい事。薬の評判は近くの村ばかりか遠く江戸に

まで広がりました。その評判を聞きつけて、足の怪我で困っている江戸の両国の関取までがやってきました。若者は川太郎どんから教わった薬を布にのばして、足の怪我をしたところに貼り、1日に1枚ずつ貼り替えたところ13日目に、怪我はすっかり治ってしまいました。

それ以来、人々はこの薬を「十三枚」と呼ぶようになり、若者の家は「十三枚医院」と呼ばれるようになったそうです。

(利根川愛好会会長 林 敏夫)

短信・河口堰

利根川大橋全面通行止め (第三報)

平成15年12月発行の「河口堰だより第2号」、平成16年9月発行の「河口堰だより第5号」でお知らせしましたように、本年度は調節門9号のゲート開閉装置に付随するドラムギヤ(歯車)の整備を予定しています。

ドラムギヤは、上段雇用と下段雇用の2つあり、直径がいずれも約2mとサイズが大きく、重量も4t強というようになりかなり重いことから、機械室からドラムギヤを搬出・搬入する際には安全対策上からも利根川大橋を全面交通止めせざるを得ません。

この内、ドラムギヤ搬出につきましては、平成16年11月26日深夜に実施いたしました。関係機関、地域住民の方々のご理解とご協力のおかげで、全面交通止めに伴う混乱もなく、無事に搬出作業を終えることができました。

後は、工場で整備したドラムギヤの搬入作業ですが、平成17年1月25日の午前0時から午前5時30分までの5時間半を予定しています。

その間は、利根川大橋は全面交通止めとなります。

本工事に伴う交通規制に関する情報につきましては、今後も周知看板の設置等により速やかに提供していく所存ですので、引き続きご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

イベント案内

黒部川は、利根川下流域の旭市、千鴻町、小見川町、東庄町、海上町、飯岡町の水道水源となつている川で、毎年約り大会やレガッタ大会を開催したり、毎日多くの住民が川沿いの散策やサイクリングを楽しむなど、地元にとって馴染みの深い川となつています。

東庄ライオンズクラブでは、世界ライオンズデーに因んだ環境美化運動として、毎年、黒部川並びに桁沼川流域の河川清掃奉仕作業を実施しています。15回目を迎える今年も10月17日(日)に笹川漁業組合、国土交通省、千葉県、東庄町、愛約



黒部川清掃活動の様子

千葉日報

15年にわたり河川清掃

2004年(平成16年)10月19日(火曜日)

東庄ライオンズクラブが主催する「15年にわたり河川清掃」が、10月17日(日)に黒部川下流の旭市、千鴻町、小見川町、東庄町、海上町、飯岡町の6町で実施された。今年で15回目の開催となるこの清掃活動は、黒部川の水質改善と水源の保全を目的として、毎年10月17日(日)に黒部川下流の旭市、千鴻町、小見川町、東庄町、海上町、飯岡町の6町で実施されている。今年も15回目の開催となるこの清掃活動は、黒部川の水質改善と水源の保全を目的として、毎年10月17日(日)に黒部川下流の旭市、千鴻町、小見川町、東庄町、海上町、飯岡町の6町で実施された。



千葉日報に取り上げられたライオンズクラブとの清掃活動

今年には台風の当たり年だったということもあって、例年を上回るゴミの量でした。東庄ライオンズクラブでは、来年からより多くの町民や近隣の自治体と連携を図ってきたいということですので、関心のある方は是非ご参加下さい。また、東総広域水道企業団でも、黒部川流域の清掃活動を年2回実施しています。利根川河口堰管理所は、この清掃活動にも積極的に参加しています。